

本件連絡先 泉南市埋蔵文化財センター TEL: 072-483-6789

担当: 城野(じょうの)・河田

メールアドレス: maibun@city.sennan.lg.jp

平成27年5月20日

泉佐野市政記者クラブ会員 各位

泉南市秘書広報課長 古木 孝彦

(広報担当: 藤原)

阪南大学和泉研究室のアイデアをもとに 住民が考えた

タコ壺プロジェクトを開始します

- 企画の概要 泉南市は、世界的なタコ壺のまちであり、おいしいタコの獲れるまちでもあります。にもかかわらず、それを知る市民も少なく、そのことを知ることのできる場と機会が皆無といっても過言ではありません。言い換えれば、泉南市は「まちの特徴(タコ壺、おいしいタコ)を活かしきれていない」ともいえます。このプロジェクトは、プロジェクトの過程や、参加した市民が楽しむ様子を積極的に公開することで、今よりも多くの人に「泉南市＝世界的なタコ壺のまち＝おいしいタコの獲れるまち」であることを知ってもらうことを目的とします。これにより、泉南市が今以上に、多くの人にとって魅力あるまちとなるはずです。

- 主催 泉南市教育委員会

- 協力 大阪府、大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)、岡田浦漁業協同組合
SENNANまちづくり市民会議、泉南市観光協会、阪南大学国際観光学部和泉研究室

【参考】これまでの経緯 -----

2014 7/28「情報の提供」場所: 阪南大学

泉南市職員が学生に情報を提供。どのような地域資源があるのか、どのような活用の実績があるのかなど、講座形式でおこなった。

9/19「課題を探る」場所: 埋蔵文化財センター

学生が住民と対話をとおして、地域の課題を探ることで、泉南市についての理解を深めるための機会。参加した住民からは、「自然や歴史に由来する魅力が点在する景観」がある一方で「まちを好きになるきっかけがない」といった課題が提示された。

10/24・11/4「現地調査」場所: 泉南市内

これまでに得た情報をもとに、現地を確認。岡田地区、樽井地区、ショッピングモールなどを見学。

11/24「中間報告会」場所: 阪南大学

企画のアウトラインを発表し、指導教官からの指導を受ける機会。泉南市職員が参加。

12/1「プレ・プレゼン」場所: 阪南大学

本番と同じ発表形式で、関係者からの指導や助言を得る機会をもった。大阪府文化課、enoco、泉南市職員が参加。

12/15「プレゼン」場所: 泉南市埋蔵文化財センター

2グループから2つのアイデアが提案されたのち、住民を交えてワークショップを開催。実現を目指したアイデアに練り上げた。

2015 3/10・4/17・5/15「タコ会議」場所: 泉南市埋蔵文化財センター

「タコ壺プロジェクト」を実施するべく、住民が企画を練り上げるワークショップを開催。

阪南大学和泉研究室のアイデアをもとに 住民が考えた せんなんタコ壺プロジェクト 企画案

泉南市は、世界的なタコ壺のまち*であり、おいしいタコの獲れるまち**でもあります。にもかかわらず、それを知る市民も少なく、そのことを知ることのできる場と機会が皆無といっても過言ではありません。言い換えれば、泉南市は「まちの特徴（タコ壺、おいしいタコ）を活かしきれていない」ともいえます。

このプロジェクトは、プロジェクトの過程や、参加した市民が楽しむ様子を積極的に公開することで、今よりも多くの人に「泉南市＝世界的なタコ壺のまち＝おいしいタコの獲れるまち」であることを知ってもらうことを目的とします。これにより、泉南市が今以上に、多くの人にとって魅力あるまちとなるはずです。

企画1 「せんなん戎畑遺跡のタコ壺をつくる！」

「泉南市＝世界的なタコ壺のまち」であることを知ってもらうためのプログラム。学校教育と、生涯学習の場で実施します。発掘調査の成果をもとに、むかしと同じ方法でタコ壺をつくる参加体験型学習です。

主催：泉南市教育委員会（せんなんタコ壺プロジェクトメンバー）
協力：市内小学校

「タコ壺作り」+ タコ壺の話

- 「まいぶんクラブ」5/9・埋蔵文化財センター行事
- 雄信小学校6年 5/19 出張授業
- 西信達小学校6年 5/21 出張授業
- 樽井小学校6年 5/26・出張授業
- 一丘小学校6年 調整中・出張授業
- 漁に使うタコ壺製作
プロジェクトメンバーのみ 5/7・5/25
- 「タコ壺焼き」各小学校 6月予定

企画2 「実験！昔のタコ壺でタコが獲れるか」

「泉南市＝おいしいタコの獲れるまち」であることを知ってもらうためのプログラム。企画1で作ったタコ壺でタコ壺漁が実施できるのか、地元漁協の協力を得て実験します。プラスチック製の現代のタコ壺も併用し、どちらが沢山獲れるのかも比較する予定です。

主催：泉南市教育委員会（せんなんタコ壺プロジェクトメンバー）
協力：岡田浦漁業協同組合
阪南大学和泉研究室

- 5/1 漁協さんへ相談
- 5/18 漁協さんへ協力の依頼
- 「タコ壺の設置」6/23・10:00～
*プロジェクトメンバーのみ
(協力：岡田浦漁業協同組合)
- 「タコ壺の引上げと試食」6/30
10:00～
協力：岡田浦漁業協同組合
阪南大学和泉研究室
*雨天の場合、7/7に順延

企画3 プロジェクト成果展「せんなんタコあかり」

泉南市は、世界的なタコ壺まちであり、今もおいしいタコの獲れるまちでもあることを、多くの人に知ってもらうためのプログラム。海の魅力を発信するイベントで、企画1・2の成果展示と、企画1で小学生が作ったタコ壺でイルミネーションを実施します。

主催：泉南市教育委員会（せんなんタコ壺プロジェクトメンバー）
協力：SENNAN まちづくり市民会議

- 成果展をつくる① 参加者募集
7/17 10:00～12:00
「アイデアをだしてまとめる」
- 成果展をつくる② 参加者募集
7/31 10:00～12:00
「具体的に作る」
- この間、作業を随時実施
- 企画3「プロジェクト成果展」
8/30(土)
協力：企画1に参加した市民
- 企画3「プロジェクト成果展」
2016.1以降
会場：埋蔵文化財センター

この日開催の海を楽しむイベント「せんなん海道ブルーリズム」で展示予定。

* 泉南市では、弥生時代から現代まで、数千年間にわたりタコ壺漁が生業のひとつと営まれてきました。なかでも、戎畑遺跡は、「タコ壺づくりの村」がみつかっており、タコ壺漁の歴史を知るうえで世界的な遺跡と言えます。このことから、泉南市は「世界的なタコ壺のまち」と言っても過言ではありません。それにもかかわらず、それを知る泉南市民は、ほとんどいません。

** 泉南市でとれるタコは「やらこって、うまい！」と昔から言われます。おススメの食べ方は、獲れたて、ゆでたてのタコの足を、マヨネーズをつけてがぶっとまるかじり。でも、このおいしさを味わったことのある市民は多くはありません。「やらこって、うまい！泉ダコ」が、目の前の海でとれるにもかかわらず、他地域でとれるタコを食べているからです。

【大阪湾でのタコ壺漁】豊かな恵みを効率的に活用するための知恵から生まれた漁法と考えられます。海中に投下して、気の向いたときにタコ壺を引き上げにいけば、「おかず程度」のタコがいつでも獲れるからです。田畑を耕しながら、海でほかの魚をとりながら、タコをとることができるのです。今でこそカゴ漁が盛んになっていますが、暮らしに根付いた、伝統的な漁法と言えます。